

0 minute

5 minute

10 minute

GC

HIV  
 MRSA  
 Bacillus  
 Salmonella  
 Candida  
 Herpes  
 Polio  
 Trich

**5**分で殺菌、  
**10**分で滅菌。

HIV、B型肝炎ウイルスなど

スピーディな滅菌と、環境に配慮した消毒システム



劇薬 過酢酸製剤

**アセサイドMA 6%消毒液**

化学的滅菌・殺菌消毒剤（医療器具・機器・装置専用）

**AcecideMA** 薬価基準対象外

ジーシーが提案するスピーディな消毒滅菌システム。  
過酢酸製剤"アセサイドMA6%消毒液"は、  
短時間で効果的な消毒・滅菌が行えます。



わずか  
**5分で殺菌、10分で滅菌。**

常温下、短時間で効果的な消毒・滅菌が可能なので、所要時間の短縮化を実現します。臨床や休憩の合間など、少しの空き時間を利用して消毒・滅菌作業が可能になりました。

所要時間比較	
殺菌	滅菌
20分 60分	180分 600分
5分 10分	60分
グルタラル製剤	オートクレーブ (乾燥時間含まず)

※常温下、芽胞:Bacillus subtilisをはじめ、各種供試菌を用いた殺菌効力試験による結果。

## ウイルス・細菌を消毒・滅菌。

芽胞・抗酸菌・真菌・一般細菌など幅広い微生物の消毒・滅菌から、HIV、B型肝炎、C型肝炎のウイルスまでもブロック。また、血液凝固などのタンパク汚れを固着させることはありません。

消毒剤	一般細菌	ウイルス	抗酸菌	芽胞
アセサイドMA*	●	●	●	●
グルタラル製剤	●	●	▲	▲

\*10分滅菌の場合 ●有効 ▲菌種によって感受性に差がある

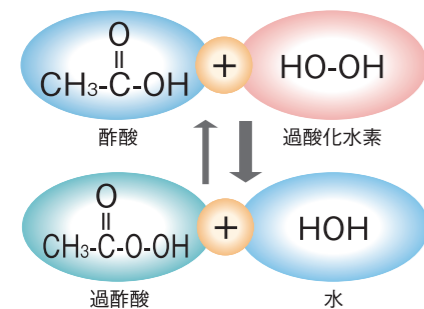
別売の「アセサイドチェッカー」で実用濃度を即判定。

アセサイドチェッカーは約10秒で濃度判定をする試験紙。アセサイドMA実用液に漬けるだけで、使用可能な状態を確認することができます。アセサイドMA実用液は約1週間を目安に繰り返し利用できます。



## スタッフの方の健康を第一に。また、院内の環境にもやさしい。

◆アセサイドMAはナチュラル成分。  
過酢酸は酢酸と過酸化水素の化合物で、水、酢酸、酸素に分解される自然成分です。



◆使用後の液は流水下に流せ、環境汚染の心配がありません。  
過酢酸は有機物等との反応後、酢酸と酸素に分解。過酸化水素も容易に酸素と水に分解します。使用後の液は流水下で十分に希釈させて流すことが可能です。

- 発がん性と密接な関係にある変異原物質に指定されていません<sup>1)</sup>。
- 作業環境許容濃度は設定されていません<sup>2)3)</sup>。
- アレルギーや感作の報告はありません<sup>3)</sup>。

1) Malchesky, P.S., Disinfection, Sterilization, and Preservation, 5th ed. (ed. by Block, S.S.), Philadelphia: Lippincott Williams & Wilkins, p.976-996, 2000  
2) 日本産業衛生学会において、酢酸の許容濃度は設定されています。[10ppm:8時間/日(40時間/週)]  
3) 古田太郎, 病院サバイブ2001;5(2):68-73

## 過酢酸製剤の消毒滅菌システム

### 洗浄



歯科器具洗浄剤

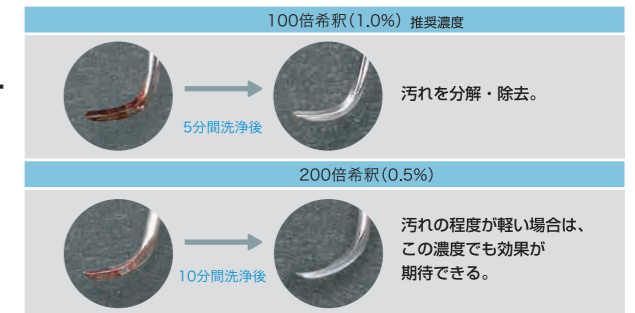
### ジーシー ハイジーンウォッシュ 酵素系洗浄剤

- 短時間で強い洗浄力ー酵素配合ー
- 中性(pH7.0~8.0) ●防錆剤配合
- 抗菌剤配合

包装

- 1L1本計量カップ付
- 5L1本計量カップ付

洗浄効果の比較



条件: スケーリング後、48時間放置。超音波洗浄器を使用し、20℃で洗浄。

### 消毒滅菌

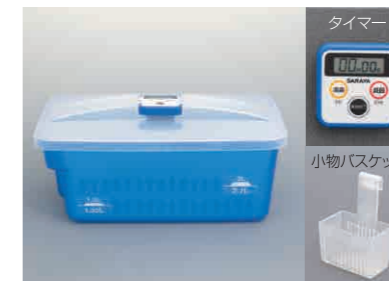


過酢酸製剤

### アセサイドMA6%消毒液

包装●1函=第一剤(主剤)液75mL1本、第二剤(緩衝剤)液75mL1本

医薬品承認番号22300AMX01170000



薬液浸漬容器

### アセサイド専用浸漬槽

アセサイド専用の浸漬槽です。1.5Lの単位で3Lまで実用液をつくることができます。蓋に設置できるタイマー、水洗いや乾燥に便利なトレイ、小物入れバスケット付です。

寸法●376mm(幅)×226mm(奥行)×161mm(高さ)  
包装●1函:浸漬槽、タイマー、トレイ、小物バスケット、予備洗浄槽



過酢酸製剤 濃度判定用試験紙

### アセサイドチェッカー

アセサイドMA実用液の過酢酸が実用下限濃度の0.2%以上であることを確認することができる専用試験紙です。実用濃度が10秒間で確認できます。

包装●1函:100枚

### アセサイドMA実用液(1.5L)の調製方法と使用手順

- 最初は第二剤(緩衝剤)を  
専用槽に1.35Lの水と第二剤を入れます。
- 次に第一剤(主剤)を  
第一剤を入れて、攪拌し蓋をします。  
※第一剤の空の容器は付属のビニール袋に入れて捨ててください。
- アセサイドチェッカーでチェック  
使用前にアセサイドチェッカーで、実用濃度を確認します。
- トレイに入れて浸漬  
器具をゆっくり浸漬してください。
- 消毒(殺菌)5分、滅菌10分  
タイマー時間厳守  
アラーム後、直ちにトレイごと器具を取り出してください。腐食、変色する場合がありますので、10分を超える浸漬は避けください。
- 十分にすすぐ  
すすぎは流水で15秒以上してください。原則として滅菌水を使用し、充分すすぎ、乾燥させます。
- 排水  
多量の流水下で希釈しながら液を排出します。

### 使用時のご注意

**アセサイドMA実用液の調製から消毒滅菌作業に入る前に**  
アセサイドMA実用液の調製から消毒滅菌作業の前に、安全対策のため、ゴーグル、ゴム手袋、マスクなどの保護具の着用をしてください。

### 使用器具について

- 適用器具 ————— ステンレス製の器具、プラスチック器具など。
- 適用できない器具 ————— ステンレス製以外の金属製品、シリコンゴムを除くゴム製品など。

# Drug Information (2012年1月作成)

和名	アセサイドMA6%消毒液	洋名	ACECID MA	一般名	低濃度過酢酸平衡混合物	化学名	エタンペルオキシ酸	規制区分	劇薬		
日本標準商品分類番号	877321	承認番号	22300AMX01170000	承認年月日	2011年8月23日	販売開始	2012年1月	薬価記載	対象外		
組成・性状	アセサイドMA6%消毒液は、第一剤(主剤)と添付の第二剤(緩衝剤)を混和して使用する組み合わせ医薬品である。(なお、精製水で希釈し0.3%実用液として使用する。)										
	組成				性状						
	第一剤	過酢酸を6%含有し、過酸化水素、酢酸、その他1成分(安定化剤)、及び水を含む平衡混合物である。				酸性の無色澄明の液で、刺激性の特異なにおいがある。					
	第二剤	9成分(緩衝剤、安定剤、及び金属イオン封鎖剤)を含有する。実用液のpH調整及び安定化に用いる。				アルカリ性の無色～淡黄色の澄明の液で、わずかに特異なにおいがある。					
0.3%実用液									無色の澄明の液で、弱い酢酸様のにおいがある。(pH約3.8)		
効能・効果	医療器具の化学的滅菌又は殺菌・消毒										
効能・効果に 関連する 使用上の注意	(1)作用時間と有効な微生物				(b)麻酔装置類、人工呼吸装置類、人工透析装置類、歯科用器具又はその補助器具、注射筒、体温計、プラスチック器具等。 ** (a)データのあるもの、(b)類推できるもの						
	作用時間	一般細菌	ウイルス	抗酸菌	芽胞	*高度に汚染されている場合、生残することがある。					
用法・用量	(1)調製法 本品の実用液の調製は、次の方法による。 第一剤75mL、第二剤75mL及び精製水1,350mLの割合で混和し、0.3%実用液を製する。 2.使用方法 (1)あらかじめ洗浄、水洗を行った医療器具を液に完全に浸漬する。細孔のある器具類や構造の				(5)浸漬時間 5分間の浸漬では、器具が大量の芽胞に汚染されている場合に生残することがあるので、芽胞の殺滅を要する場合は、10分以上浸漬すること。器具によっては変色したりするおそれがあるため、連続1時間を越えて浸漬しないこと。 (6)浸漬処理の繰り返しにより、天然ゴム・生ゴム製品で、びび等の劣化を生ずることがあり、殺菌効率も低下する。ゴムを使用した器具については、天然ゴムや生ゴムが使われているかどうかを確認すること。 (7)器具のびびや錆は、消毒効果を不十分にし、錆は実用液の安定性にも影響するおそれがある。びびや錆のある器具には適用しないこと。 (8)安全対策 洗浄・消毒時は、感染性物質及び消毒液の付着や吸入を避けるために、ゴム手袋、ガウン、マスク、眼鏡等の保護具を着用すること。						
	(2)適用できる器具** (a)レンズ装着の装置類、内視鏡類、メス・カテーテルなどの外科手術用器具、産科・泌尿器科用器具。										
用法・用量に 関連する 使用上の注意	(1)過酢酸濃度が0.2%を下回る場合は十分な殺菌効果が得られないので、使用前に化学的インジケーター(例えば、アセサイドチェッカー)等を用い実用下限濃度(過酢酸濃度0.2%)以上であることを確認すること。 (2)器具に付着している血液、体液等の有機物が本剤の効力や安定性に影響を及ぼすおそれがあり、又、生体物質中の塩化物が原因で器具に錆の発生や劣化が起こり得るので、消毒前に十分に洗浄し、目に見える汚れを除去すること。内視鏡等の構造の複雑な器具の洗浄方法については、メーカーの推奨する方法や学会等のガイドライン等に従うこと。 (3)器具は換気を心掛けること。なお、必要に応じて、ドラフト内での使用も考慮すること。 (4)過酢酸の残留は、市販のヨウ化カリウムでふんばりにより検査できる。器具のすすぎに十分な条件をあらかじめ確認しておくこと。薬液の残留が検出される器具は、すすぎ時間の延長などにより適切なすすぎ方法を設定し、残留がないことを確認しておくこと。				(5)浸漬時間 5分間の浸漬では、器具が大量の芽胞に汚染されている場合に生残することがあるので、芽胞の殺滅を要する場合は、10分以上浸漬すること。器具によっては変色したりするおそれがあるため、連続1時間を越えて浸漬しないこと。 (6)浸漬処理の繰り返しにより、天然ゴム・生ゴム製品で、びび等の劣化を生ずることがあり、殺菌効率も低下する。ゴムを使用した器具については、天然ゴムや生ゴムが使われているかどうかを確認すること。 (7)器具のびびや錆は、消毒効果を不十分にし、錆は実用液の安定性にも影響するおそれがある。びびや錆のある器具には適用しないこと。 (8)安全対策 洗浄・消毒時は、感染性物質及び消毒液の付着や吸入を避けるために、ゴム手袋、ガウン、マスク、眼鏡等の保護具を着用すること。						
	(1)重要な基本的注意 (1)人体に使用しないこと。 (2)本品第一剤は酢酸様の強い刺激剤がある。換気設備のある部屋で保管及び使用すること。実用液の調製には、専用の浸漬装置を用いるか、ドラフト等を使用し、蒸気の吸入を可能な限り回避すること。実用液の使用及び保管に際しては、フタ付き容器等を使用し蒸散を防ぐと共に換気を心掛けること。なお、必要に応じて、ドラフト内での使用も考慮すること。 (3)眼に決して入らぬよう眼鏡等の保護具をつけるなど、十分注意して取り扱うこと。実用液の調製等第一剤を扱う場合は洗眼できる設備のある場所や洗眼用の水を準備して行うこと。誤って眼に入った場合は、直ちに多量の水で洗った後、専門医の処置を受けること。 (4)第一剤を扱う場合は洗眼できる設備のある場所や洗眼用の水を準備して行うこと。誤って眼に入った場合は、直ちに多量の水で洗った後、専門医の処置を受けること。 (5)第一剤を扱う場合は、過酢酸水溶液との接触により皮膚が白色化又は浮腫を生じることがある。				あるので、ゴム手袋等の保護具を着け、皮膚に付着しないように注意すること。皮膚に付着したときは直ちに多量の水で洗い流すこと。実用液を使用する際も取り扱い時は、ゴム手袋を着用すること。 2. 適用上の注意 (1)誤飲を避けるため、保管及び取り扱いに十分注意すること。 (2)実用液を調製する場合、ビペットなどで直接口で吸引して調製しないこと。 (3)本品は酸性であるので、次亜塩素酸塩等の塩素系殺菌剤と混合すると塩素ガスを発生するので、混合しないこと。 3. その他の注意 マウスに適用した非臨床試験において、過酢酸は弱い完全発がん物質であるとの報告がある。 過酢酸エアロゾルを吸入させた非臨床試験において、マウスに肺腫瘍を形成させたとの報告がある。						
急性毒性(LD <sub>50</sub> ) <sup>3)</sup> 第一剤: LD <sub>50</sub> (mg/kg)	局所刺激性 <sup>3)</sup> 第一剤: 試験動物 ウサギ										
	動物	ラット		皮膚一次刺激性		健常及び損傷部位に閉鎖貼付、単回(0.5mL/site)		中等度から強度の刺激物		皮膚に付着すると、痛みをともなう皮膚の白色化、浮腫を生じ、眼に直接接触した場合、失明を含む不可逆的損傷を引き起こすことがある。	
非臨床試験	経路	オス	メス	眼粘膜刺激性		単回(0.1mL/眼)		極度の刺激物、非可逆的な刺激性			
	経口	>2600		>2600		実用液: 試験動物 ウサギ		皮膚一次刺激性		健常及び損傷部位に閉鎖貼付、単回(0.5mL/site)	弱い刺激物
薬効薬理	1. 一般細菌に対する殺菌効果 <sup>4)</sup> アセサイド希釈液は、実用下限以下の過酢酸濃度液(0.18%)で、グラム陽性菌(抗酸菌を除く)及びグラム陰性菌を含む各種一般細菌を1分以内に、枯草芽胞を2.5分以内に殺滅した。 2. 各種抗酸菌に対する殺菌効果 <sup>4)</sup> アセサイド希釈液は、実用下限以下の過酢酸濃度液(0.18%)で、各種抗酸菌( <i>Mycobacterium tuberculosis</i> H37Rv、 <i>M. avium</i> ATCC25291、 <i>M. intracellulare</i> ATCC13950、 <i>M. kansasii</i> ATCC12478)を1分以内に殺滅した。 3. 各種真菌に対する殺菌効果 <sup>4)</sup> アセサイド希釈液は、実用下限以下の過酢酸濃度液(0.18%)で、 <i>Candida albicans</i> IFO1594、 <i>Cryptococcus neoformans</i> T1M0354、 <i>Trichophyton mentagrophytes</i> T1M1189を1分以内に、 <i>Aspergillus niger</i> IFO6341を2.5分以内に殺滅した。 4. 各種ウイルスに対する不活化効果 <sup>4)</sup> アセサイド希釈液は、実用下限以下の過酢酸濃度液(0.18%)で、単純ヘルペスウイルス1型				及びアデノウイルス5型を2.5分以内に不活化した。0.18%液でポリオウイルス3型を検出限界以下(<5.6×10 <sup>2</sup> TCID <sub>50</sub> /25µL)まで不活化するのに10分を要したが、0.24%以上の濃度液は5分以内に検出限界以下まで不活化した。 5. 各種医療器具に対する実用効果 <sup>5)6)</sup> アセサイド実用液(0.3%)は、 <i>Bacillus subtilis</i> 芽胞、ウマ血清及びNaClを含む菌液で汚染した各種医療器具を、作用時間5分程度でほとんどの試験(147/161)で殺滅した。ウマ血清及びNaClを含む <i>B. subtilis</i> 芽胞菌液で汚染した軟性内視鏡を実用液に5分間浸漬した結果、ほとんどの試験(10/13)で検出限界以下となり、10分ではすべての試験(10/10)で検出限界以下となった。 6. 作用機序 <sup>7)</sup> 過酢酸の作用機序は、ヒドロキシルラジカルの生成による細胞の蛋白変性と、それに基づく輸送の阻害、代謝の必須酵素の不活化、細胞膜とその透過性の破壊、核酸の変性・破壊などが示されている。						
	有効成分の 理化学的知見	1. 化学構造式: CH <sub>3</sub> COOOH 2. 化学名: エタンペルオキシ酸(ethaneperoxic acid)		3. 分子式: C <sub>2</sub> H <sub>4</sub> O <sub>3</sub> 4. 分子量: 76.05 5. 性状: 無色澄明の液で、刺激性の特異なにおいがある。水と混和する。							
取扱い上の 注意	<注 意> (1)浸漬には、フタ付き容器を用い、使用中はフタをすること。 (2)実用液は、容器にフタをし、直射日光を避け、常温で保管すること。 (3)第二剤は、成分、分量、特性の関係で過飽和溶液の状態になっているので、結晶が析出することがある。析出した結晶は温水浴で加熱して溶解してから使用すること。 第一剤については、過酢酸の分解が促進されるので、加熱しないこと。 (4)第二剤は、氷点下で結晶が析出したり、凝固することがあるため、0℃以上で保管すること。 (5)塩化ビニルやシリコン等の樹脂を使用している器具等がある場合、樹脂の部分が黄色く着色することがある。 (6)保管時や輸送時は容器を横倒しにしないこと(ガス抜きキャップから液漏れのおそれがある)。 <実用液の再使用> 実用液は実用下限濃度(過酢酸濃度0.2%)になるまで繰り返し使用できる。水や有機物の混入により、実用液中の有効成分濃度の低下が促進される。使用前に実用下限濃度以上であることを確認すること。 <応急処置> 皮膚に触れた場合: 直ちに汚染された衣服等を脱ぎ、流水で十分に洗い流す。痛みが続く場合は医師の診断を受ける。 眼に入った場合: 直ちに流水で15分間以上洗眼し、眼科医の診断を受ける。洗浄が遅れたり不十分な場合、失明のおそれがある。				吸入した場合: 速やかに新鮮な空気のある場所に移し、専門医の診断を受ける。 誤飲した場合: 直ちに多量の水や牛乳を飲ませ、無理に吐かせないで速やかに医師の診断を受ける。吐かせることにより誤嚥すると呼吸器系に障害を起こすおそれがある。 <廃棄方法> 実用液を廃棄する場合、多量の廃水とともに公共排水設備に流入する施設では、そのまま排水する。そうでない場合は、中和等の処理してから排水すること。原液(主剤、第一剤)を廃棄する場合、多量の濃厚液が直接廃水処理施設に流入すると活性汚泥に影響し、トラブルの原因になることがあるので、実用液を調整してから処理すること。原液をこぼした場合等、こぼした原液はペーパータオル等で吸い取って廃棄すること。容器に残った原液は以下のいずれかの処理をすること。処理の際、換気に注意し、手袋やマスク、眼鏡等の保護具を着用して、液との直接の接触を避けること。実用液、原液いずれの場合も地方自治体の排水基準に従うこと。詳細については、アセサイド廃液処理の手引きを参照のこと。 (1)大量の水で十分希釈する。 (2)アルカリと混合して、酢酸及び過酢酸を中和・分解する。 (3)チオ硫酸ナトリウム等の還元剤を添加して過酸化水素及び過酢酸を分解する。 <安定性試験> <sup>8)</sup> 長期安定性試験(25℃、相対湿度60%、13ヶ月間)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、本製剤は製造日より1年間(有効期限)、安定であることが確認された。						
	包装	包装形態: 第一剤と第二剤を1組にした紙箱入り。 包装単位(第一剤、第二剤とも同容量): 75mL									
主要文献	1) Bock, F. G., et al. JNCL, 55, 1359-1361, 1975. 2) Heinze, W. and Nattermann, H., Wiss. Z. Huboldt - Univ. Berlin, Math-Naturwiss Reihe, 33(5), 513-517, 1984. 3) アセサイドの毒性試験, サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料. 4) アセサイドの殺菌効力試験, サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料.				5) アセサイドの各種医療器具に対する実用試験, サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料. 6) アセサイドの内視鏡に対する実用試験, サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料. 7) Malchesky, P. S., Disinfection, Sterilization, and Preservation, 5th ed. (ed. by Block, S. S.), Philadelphia: Lippincott Williams & Wilkins, p.979-996, 2000. 8) 長期安定性試験, サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料.						
	文献請求先	株式会社ジーシー DIC(デンタルインフォメーションセンター)									

※掲載情報は2026年6月現在のものです。※会社名、製品名称等は各社の商標または登録商標です。

<p>発売元 <b>株式会社 ジーシー</b> / 製造元 <b>サラヤ株式会社</b>          東京都文京区本郷3丁目2番14号          カスタマーサービスセンター          お客様窓口 ☎0120-416480          受付時間9:00am~5:00pm.(土曜日、日曜日、祝日を除く)  <a href="https://www.gc.dental/japan/">https://www.gc.dental/japan/</a></p>	<p>支店          ●東京(03)3813-5751 ●大阪(06)4790-7333          営業所          ●北海道(011)729-2130 ●名古屋(052)757-5722          ●東北(022)785-8040 ●九州(092)441-1286</p>
---	---